

学生とシニアの対話in長岡技術科学大学 事後アンケート結果

(2022年12月2日開催 回収票：18名)

アンケート結果取纏め：本田 一明

アンケート回答者の内訳

学生	18		
修士1年	17	博士1年	1
理系	18	文系	0
就職	17	進学	1

□ 今回の講演や対話について伺います。該当するものをチェックして下さい。

(1) 講演の内容は満足いくものでしたか？ その理由は？



理由：

(とても満足)

- ・地層処分について非常に細かいことまで授業以上の内容に触れることができたため。
- ・処理する上での考え方を具体的に聞いた。
- ・使用済み燃料の廃棄と管理について学ぶことが出来た。
- ・スライドが詳しく分かり易かった。
- ・地層処分の課題とそれに対する具体的な対策を知る事が出来たから。

(ある程度満足)

- ・様々な知見が得られた。
- ・新しい知見を得られた。

(2) 対話の内容は満足いくものでしたか？ その理由は？



理由：

(とても満足)

- ・海外の研究などに触れることができたため。
- ・貴重なお話をたくさん聞いた。
- ・使用済燃料の処分や再処理の方法について、どのような点に留意しているか知れた。
- ・現状やサイズ感、具体的なお話を聞けました。
- ・途中参加ではあったがリスクに対する考え方の議論など大変興味深かった。
また、未発生事象に対する対処方法を考えることは非常に困難を極めた。

(ある程度満足)

- ・知識不足から積極的に話せはしなかったが、非常に興味深いお話（地層処分の現状や何故実現できないのかなどの原因について）を聞いたから。

(3) 事前に聴きたいと思っていたことは聞きましたか？

9	7	1	1
十分に聞くことが出来た	ある程度聞くことが出来た	あまり聞けなかった	全く聞けなかった
			無回答

(4) 今回の対話で得られたことは何ですか？（複数回答も可）

新しい知見が得られた	17	マスコミ情報と今回の対話会情報に違いがあった	2
自分の将来の進路の参考になった	2	教育指導の参考になった	1
特に新しい知見は得られなかった	0	その他（具体例）	1

その他（具体例：youtubeチャンネルなど）

(5) 「学生とシニアの対話」の必要性についてどのように感じますか？

13	4		
非常にある	ややある	あまりない	全くない

回答なし 1

理由：

(非常にある)

- ・難しい知識や事例ベースの話聞くことができて良かった。
- ・プロの意見を持って聞くことができたため。
- ・シニア世代の方の経験が聞けたから
- ・原子力に関する正しい知識を持った方々と対話できるのは貴重
- ・シニアが学生の現状を知る事は利益につながると思う。
- ・企業の方の知識や雰囲気に触れられるため。
- ・知識・経験の伝承に必要だと考える。
- ・授業で触れた内容（群分離、地層処分）に関して、深く掘り下げて話を聞くことができた。

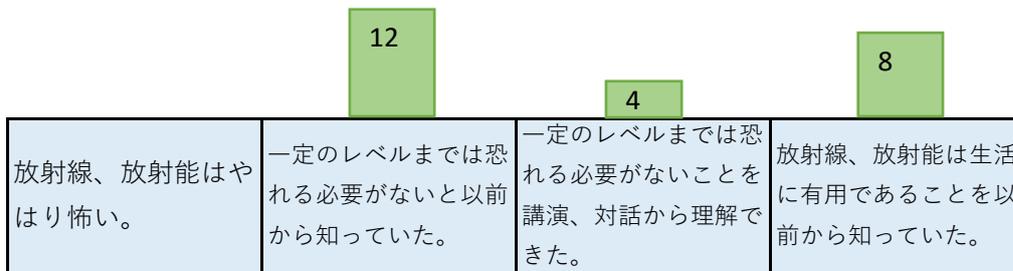
(ややある)

- ・少しテーマが逸れてしまっていた。新しい知識が得られた。

(6) 今後、機会があれば友達や後輩に対話会への参加を勧めたいと思いますか？

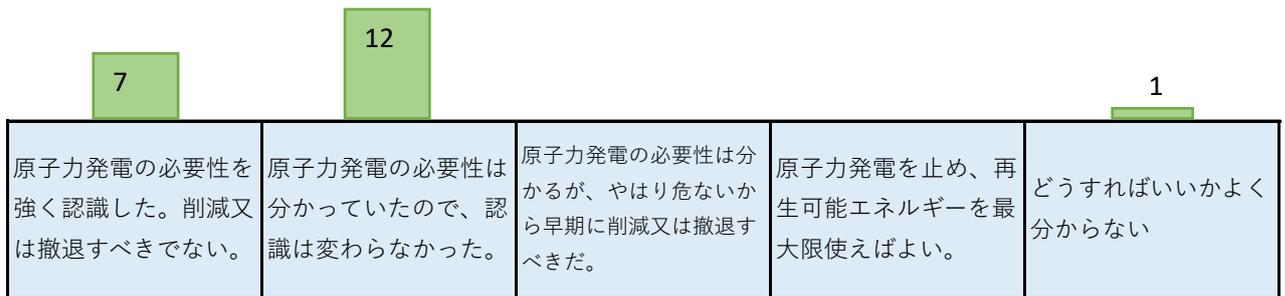


□放射線、放射能について伺います。(複数回答も可)



□原子力発電に対して伺います。

第6次エネルギー基本計画では、原子力については、安全性の確保を大前提に必要な規模を持続的に活用していくとしつつ、可能な限り原発依存度を低減するとしています。本日の対話も踏まえ、あなたの認識は次のどれですか？



理由：

(複数回答あり)

(原子力発電の必要性を強く認識した。削減又は撤退すべきでない)

- ・客観的事実
- ・現状、日本の放射能や放射線に対する安全意識がやり過ぎな程レベルが高いものだという知見が得られたこともあり、より一層原子力発電に対する信頼性が強くなったから。

(原子力発電の必要性は分かっていたので、認識は変わらなかった)

- ・再生可能エネルギーは不安定なためこれだけでは厳しいと思うので、原子力も活用したエネルギーミックスが必要。
- ・今回の対話で替りの電力供給が無いこと、また、安全性が再確認できた。
- ・火力発電に依存している危険性を認知しているから。

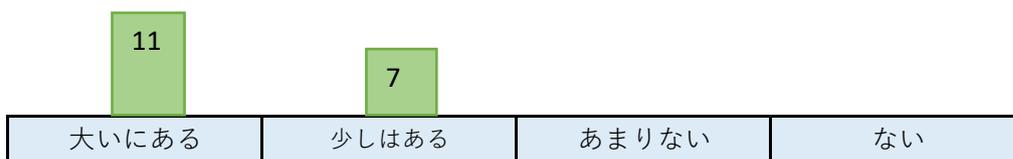
(どうすればいいかよく分からない)

- ・今回HLWの減衰についてよく考えさせる場面があり、すぐには決められなくなった。

□2050年カーボンニュートラル（脱炭素）に対して伺います。

温暖化対策や脱炭素社会実現に向けたメディア報道が盛んです。あなた自身の意識をお聞きします。

(1) 地球温暖化や脱炭素社会の実現について関心や興味がありますか？



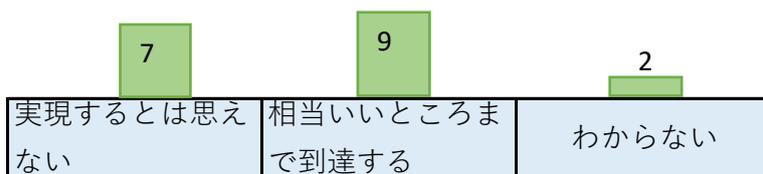
(2) 友人同士で温暖化や脱炭素社会を話題にしますか？



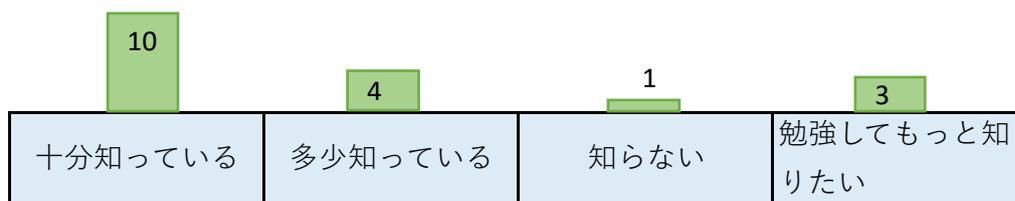
(3) 興味や関心があるのはどの項目でしょうか？（複数回答も可）

温暖化のメカニズム	3	温暖化の影響と対策	3	主要国の動向	7
エネルギー資源の確保	7	我が国の環境・エネルギー政策全般	4	脱炭素化実現のためのコスト	5
脱炭素化の手段、方法論、道筋	4	脱炭素化の技術開発、イノベーション	8	地球規模リスクの管理手法	0
脱炭素化での日本、世界の産業動向	6	これからの社会変化全般	1	原子力発電や再生可能エネルギーの役割	9
その他	1	その他：廃炉			

(4) 日本の2050年脱炭素化社会の実現可能性について見解をお尋ねします



(5) 「地球温暖化対策のための脱炭素達成には、これからのエネルギー（化石燃料、再エネ、原子力）の選択が大変重要です。あなたはこのことを知っていますか



□本企画を通して全体の感想・意見などがあれば自由に書いてください。

- ・対談を通して、非常に深い知見を得られた。
- ・授業時間の制約があるのが少し勿体ないと感じました。講演の内容やディスカッションが非常に有意義で、自分の知見を深める貴重な機会であったため、折角なら一日を通した講演会になればいいなと思いました

アンケート結果の纏め

参加学生（18名）全員から回答を頂いた。

- ・基調講演は「高レベル放射性廃棄物の処分はどうすべきか、どうするのがよいか」の演題で、海外からの留学生4人に配慮し英語で行われた。講演に遅れて受講できなかった3人を除いて「とても満足」（11人）、「ある程度満足」（4人）であり、参加者全員に満足頂けた。
- ・また、対話についてもテーマが先生から提示された高レベル放射性廃棄物の処分について深掘した難しいものであったが、学生さん達の積極的な対話への参加があり、「とても満足」（12人）、「ある程度満足」（6人）で、全員に満足頂けた。
- ・「学生とシニアの対話」の必要性については、「非常にある」（13人）、「ややある」（4人）と全員（1名は回答なし）から評価頂いた。
- ・原子力発電の必要性については、「必要性を強く認識した」が7名、「必要性は分かっていたので、認識はあまり変わらず」が12名（註：複数回答あり）であり、ほぼ全員が必要性を認識していた。
- ・2050年カーボンニュートラル（脱炭素）に対しては、関心や興味が「大いにある」（11人）、「少しはある」（7人）と全員が関心を示すものの、友人同士で温暖化や脱炭素社会について「あまり話さない」（8人）、「ほとんど話さない」（5人）との回答であり、話題にする機会は少ないようである。しかし、「大いに話す」（5人）方もおり、カーボンニュートラルは若者の中に浸透しつつあるようだ。

- ・全体としての感想では、「講演の内容やディスカッションが非常に有意義で、自分の知見を深める貴重な機会であったため、折角なら一日を通した講演会になればいいなと思いました」など、全般的に好評であった。
- ・とはいうものの、事前に聴きたいと思っていたことについては1名から「あまり聞けなかった」との回答があり、ファシリテータは学生が努めることが多くなってきたが、時間がない中でもシニアからも参加者全への目配りが望まれる。